

H i b 感染症予防接種について〔説明書〕 小平市

予防接種法に基づいて Hib 感染症の個別予防接種を行います。下記の説明をよく読み、必要性や副反応を理解してから接種を受けてください。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問しましょう。

1 細菌性髄膜炎と H i b (インフルエンザ菌 b 型)

脳や脊髄を包んでいる髄膜に細菌が感染して炎症が起こるのが細菌性髄膜炎です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの症状と似ているため、早期に診断することは難しい病気です。乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、略して「Hib」と呼ばれています。他の細菌やウイルスとは異なり、Hib は乳幼児に感染しても抗体(免疫)ができず、繰り返し感染することがあります。Hib による細菌性髄膜炎(ヒブ髄膜炎)は、5 歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後 3 か月から 2 歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。日本の年間患者数は平成 19 年度以降 400 人前後と報告されており、5 歳になるまでに 10 万人当たり 0.6 人の乳幼児がかかっていることとなります。Hib 髄膜炎にかかると予後不良になることが多く治療を受けても約 5 %の乳幼児が死亡し、約 2 5 %に発育障害や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。最近では抗生物質の効かない菌も増えてきており、治療が困難になってきています。その他にも、肺炎、喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身感染症を引き起こします。

2 H i b 感染症予防接種

H i b 感染症予防接種は、インフルエンザ菌 b 型による感染症、特に侵襲性の感染症(髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節炎、喉頭蓋炎、肺炎及び骨髄炎など)を予防します。インフルエンザ菌 b 型の莢膜多糖体と破傷風トキソイドを共有結合した、ヘモフィルス b 型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)を接種します。このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分(フランス産ウシの肝臓及び肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液及び心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界 1 0 0 か国以上で使用されており、このワクチンの接種が原因で TSE (伝達性海綿状脳症)にかかったという報告は 1 例もありません。理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人が TSE にかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

3 副反応について

他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日たつと消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)です。また発熱が接種された人の数パーセントにおこります。重い副反応としては、非常にまれですが、ショック・アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難など)、けいれん(熱性けいれん含む)、血小板減少性紫斑病などが海外で報告されています。

4 対象者 小平市に住所を有する、生後 2 か月から 5 歳に至るまで(5 歳の誕生日の前日まで)の子

5 接種スケジュール

(1)接種開始が生後2か月～7か月に至るまで:計4回接種。

初回接種…いずれも 27 日(医師が必要と認めるときは 20 日)間以上、標準的には 56 日までの間隔をあけて 3 回接種。

追加接種…初回接種に係る最後の注射終了後 7 か月以上、標準的には 13 か月までの間隔をおいて 1 回接種。

※ただし、初回 2 回目及び 3 回目の接種は、生後 12 月に至るまでに接種し、それを超えた場合は行えない(この場合追加接種は実施可能であるが、初回接種に係る最後の注射終了後 27 日(医師が必要と認めた場合は 20 日)以上の間隔をおいて 1 回行うこと)。

(2)接種開始が生後7か月～1歳に至るまで:計3回接種。

初回接種…27 日(医師が必要と認めるときは 20 日)間以上、標準的には 56 日までの間隔をあけて 2 回接種。

追加接種…初回接種に係る最後の注射終了後 7 か月以上、標準的には 13 か月までの間隔をおいて 1 回接種。

※ただし、初回 2 回目の接種は、生後 12 月に至るまでに接種し、それを超えた場合は行えない(この場合追加接種は実施可能であるが、初回接種に係る最後の注射終了後 27 日(医師が必要と認めた場合は 20 日)以上の間隔をおいて 1 回行うこと)。

(3)接種開始が1歳以上 5 歳に至るまで: 1 回接種。

6 接種方法

「小平市 Hib 感染症予防接種予診票」に記入し、予診のうえ、1回 0.5ml を皮下接種する。

7 接種間隔

Hib 感染症予防接種後、異なった種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあけてください。なお、Hib 感染症予防接種は接種医の判断と保護者の方の同意によって、他のワクチンと同時に接種することができます。接種医とよく相談してください。(生ワクチン接種後は27日間以上、不活化ワクチン接種後は6日間以上の間隔をあけて接種してください。)

8 接種場所

小平市予防接種指定医療機関Hib 感染症欄参照 ※医療機関へ予約をしてから接種に行ってください。

9 医療機関に持参するもの

母子健康手帳、㊟医療証、Hib 感染症予診票 ※住所、年齢等を確認しますので、必ず持参してください。

10 接種費用 無料

11 次の方は接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱している方。(測定した体温が、37.5℃以上をさす。)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方。
- ③ このワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応)をおこしたことがある方。
- ④ 上記にあげる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方。

12 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方。
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ③ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方。
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方。
- ⑤ このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方。

13 接種前の注意

- ① この説明書をよく読み、予防接種の必要性や副反応について、理解したうえで接種してください。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問してください。
- ② 接種前日は入浴(又はシャワー)をし、体を清潔にしましょう。
- ③ 予防接種は、体調の良い日に受けてください。
- ④ 予診票は医師の大切な情報源になりますので、正確に記入してください。

14 接種後の注意

- ① 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種当日は入浴をしても差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。接種部位は清潔に保ってください。また、いつも通りの生活をし、はげしい運動は避けてください。
- ③ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。

15 健康被害救済制度

予防接種により、万一、健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によるものであると認定された場合には、予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度が適用されます。

問合せ：小平市健康推進課 (〒187-0043 小平市学園東町1-19-12 小平市健康センター内)

電話：042-346-3700 FAX：042-346-3705